



## ・ AFTER ・

現場では先輩たちがきちんと教えてくれるため、入社前の不安が吹き飛んだ。道路づくりの技術者として日々研鑽に励んでいる。

## ・ BEFORE ・

高校時代は硬式野球部。大学時代も社会人チームで野球を続けた。そこでチームワークの大切さを学んだ。



### 立石祐輔さん

本州統括事業部 工務部

#### PROFILE

生産工学部土木工学科卒業、2017年入社。大学時代から年に数回訪れるほどの京都好き。社会人になった今でも連休には京都をはじめとする各地を旅する。社会人になってゴルフも始めた。社会人チームで野球も続けている。

#### Before → After

### やりたかった道路づくりに 日々、立ち向かえる喜び

大学時代、野球でのチーム一丸となって試合に立ち向かう姿勢は今につながっている。そして、道路という我々の生活基盤に密着した社会インフラを造りたいという思いを胸に地崎道路に飛び込んだ。やりたい仕事ができる幸せを実感しながら、さらなる高みをめざす。

#### 吹き飛んだ入社前の不安

首都圏と東北地方を結ぶ生命線である東北自動車道。その補修工事に携わる立石さんは、協力会社の従業員たちと良好な関係を築きながら作業をマネジメントしていく。とはいえ、立石さんは元々土木志望だったわけではない。中高時代の夢は数学の先生だった。だが、オープンキャンパスをきっかけに、土木工学科に進むことを決めた。

「自分の毎日の生活に欠かせない道路という存在に深く関心を持つようになったのです」

大学の講義では特に土質学や道路工学に興味を持ち、学んだことが現場でのCADや測量など今の仕事にそのまま生かしているそう。

入社後、1か月弱の研修を経て配属されたのは、羽田空港国際線ターミナルに接続するアクセス道路の新設工事。現場写真を撮って整理したり、測量したりといった作業から仕事は始まった。

「わからないことだらけで不安でした。でも、先輩たちが丁寧に教えてくれたので安心しました」

約1年後。自分が初めて携わった道路が完成した。

「何もなかった所に道路や構造物が出来上がり、一般車両が走り始めたのを目にしたときは「やったぞ!」という達成感がありました」

現場では、元請と協力会社が一体となり工事を進めていくことが、これは高校から続けている野球チームプレーに通じ、活かされているものだ。

「学生時代にやりたいと思っていた仕事を今、できています。今後、たくさんの経験を積んで知識を深めるとともに、土木施工管理技士の資格取得を目指しています」